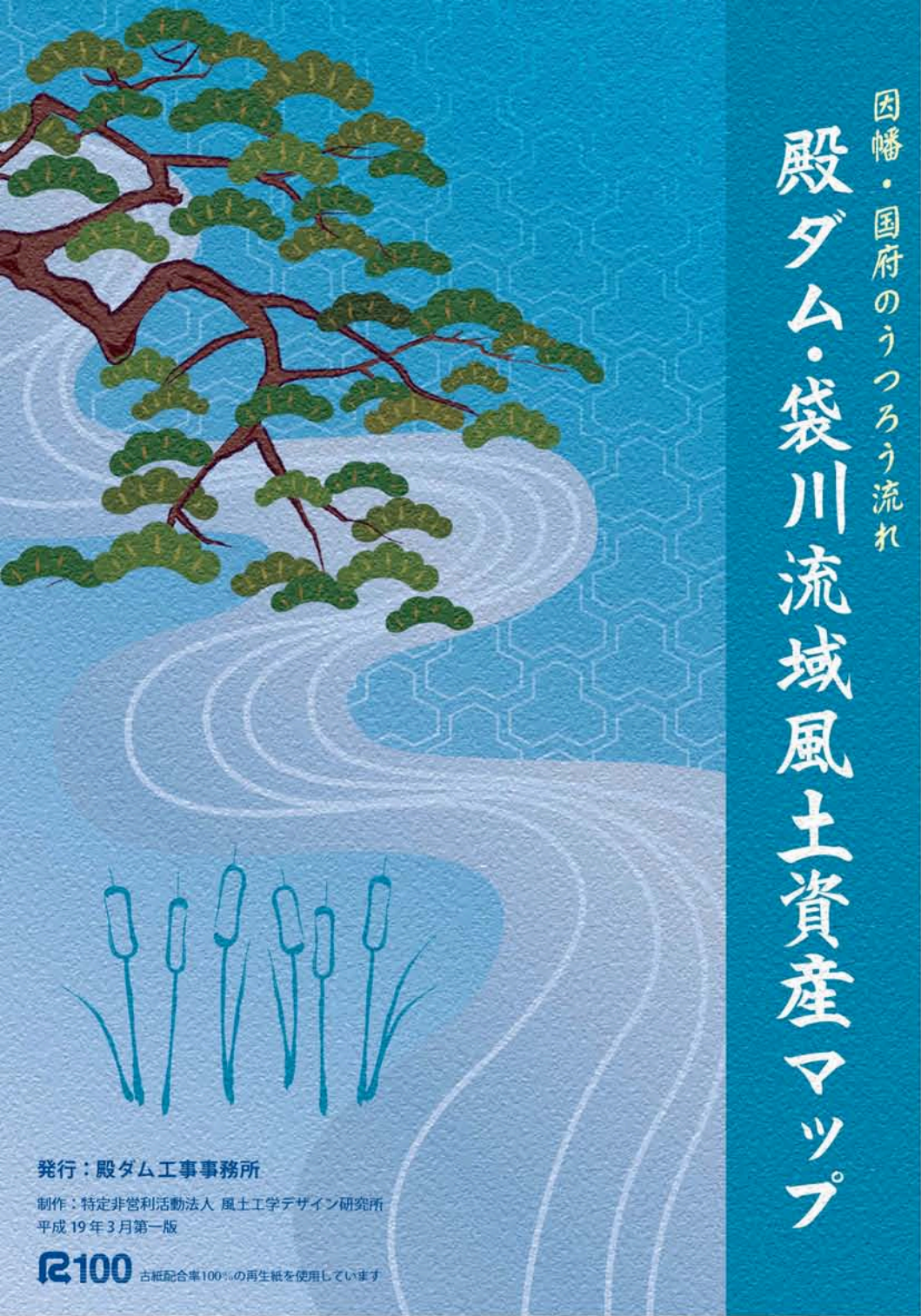




発行：殿ダム工事事務所

制作：特定非営利活動法人 風土工学デザイン研究所
平成 19 年 3 月第一版

R100 古紙配合率100%の再生紙を使用しています

一、地域の成り立ち

袋川流域の山間部は地形地域区分から見ると、中国山地に属しています。その中国山地は東北、西南にのびる 1000m 級の 3 つの山地が雁行して山地を形成しています。それらは東へ行くほど高度も増し、兵庫県境で最も高くなります。

袋川の源である扇ノ山はこの中国山地の東側に位置しています。古い火山で、わずかに火山地形を残し、妻鹿野付近と菅野には顕著な溶岩流が見られます。広留野、河合谷高原のような原野が開けていますが、袋川・八東川による浸食が進み、多くの滝がかかっています。

二、袋川流域の山々

■旧国府町 外の五山、内の四山

- 《外の五山》
- ①扇ノ山 (1309.9m) …… 遠くから見ると山容が扇の形に見える。[G-4]
 - ②大茅山 (664.1m) …… 昔は茅を刈り取る山であったという。[F-3]
 - ③宝山 (294.6m) …… 郡家町と裾を分ける。[D-4]
 - ④稲葉山 (248.9m) …… 百人一首に詠まれた山。[D-3]

～立わかれ いなばの山の嶺に生ふる
松としきかば 今かへりこむ～ 在原行平

■「平」（がなる）と呼ばれる三つの丘

鳥取地方ではひらけた地域を「平」（がなる）と呼んでいる。袋川流域にもこの名が示すような「平」（がなる）と呼ばれる、ひらけた三つの丘がある。

- ①宝殿ヶ平…国府平野を一望できるなだらかな丘。[E-3]
- ②崩御ヶ平…壇ノ浦より落ち延びた安徳天皇崩御の地の伝説が残る。[E-4]
- ③太閤ヶ平…別名本陣山、戦国期、鳥取城を攻めた豊臣秀吉が陣を構えた地。[C-2]

■鳥取城の悲哀を伝える四山

鳥取市街地の背後にそびえる久松山は、山上に鳥取城があったため「城山」とも呼ばれ、この山を舞台にして戦国時代の攻防を巡る悲哀が伝えられている。

- ①久松山 (263m) …… 項上には鳥取城の天守閣跡が残る。[C-2]
- ②丸山 (40m) …… 鳥取城の出丸が置かれた。[C-2]
- ③雁金山 (136m) 袋川水路より物資の補給地であった要害の地。[C-2]
- ④本陣山（太閤ヶ平）(252m) 鳥取城を攻めた豊臣秀吉が陣を構えた。[C-2]



久松山

壮絶なる兵糧攻め ―湊川（袋川）をはさんで―

(1) 羽柴秀吉の一回目の鳥取城攻略

- ・相手は山名豊国。天正八年（1580）6 月籠城していた山名豊国がたわいなく降服（降服すれば因幡一国を与えるが、さもないれば人質の豊国の娘をはりつけにするとの脅しの戦術により。）
- ・秀吉は姫路に軍を引いた。

(2) 天正八年 9 月 山名豊国の重臣が謀反をおこし豊国を城外に追放し、広島毛利につく

(3) 羽柴秀吉の二度目の鳥取城攻め

- ・事前に因幡中の穀物を時価の数倍の値段で買い占めた。
- ・持久戦の飢餓作戦。天正九年（1581）7 月久松山の包囲完了。
- ・約十丁（1090m）ごとに櫓を設けた。櫓には駿馬の武士 20 人、弓の射手 100 人、鉄砲 100 挺。
- ・約五丁（545m）ごとに番所を置き、番所には番士 50 ～ 60 人ずつ入れ替わり夜番。そのまわりに堀をほった。
- ・湊川に網を張る。包囲線全長約 12 k m。

『餓鬼のごとくやせ衰えたる男女、柵きわへ寄りもだえ、こがれ、助けてくれと叫び、叫喚の悲しみ衰えたる有様目もあてられず。

鉄砲をもって打倒し、ようやく息をしている者を、人が集まり刃物でもって関節を切り、身を食べた。身の内でもとりわけ、頭部は味が良いと見えて、頭から上を奪い合った。兎に角、命ほどつれなきものはない。』
（信長公記より）

(4) 10 月 25 日 開城、吉川経家自決



久松山を取り囲む羽柴秀吉の鳥取城攻めの布陣



吉川経家公像

三、流域の地名

- ①因幡…古くは「稲羽」と書いていた。「古事記」にも「稲羽の素戔」とある。名前は当時の政治の中心地、国府が置かれた法美郡稲羽郷の名を用いたもので、国の名を因幡とした後も、稲葉の名は郷名として残った。由来は一説には稲場の意で「刈り稲の寄せ場」のことという。
- ②鳥取…郷名は垂仁天皇の皇子本牟智和氣御子のために設けられたという鳥取部にちなむ。かつてはこの地域一帯が広い沼地で、多くの水鳥が生息していたからといわれる。
- ③国府…因幡国府が当地に置かれていたことに由来する。

■袋川・九別名

袋川はさほど長い川ではないが、幾つもの名を持つ川である。

- ①雨滝川 …雨滝より谷までの上流までの区間の別称。
- ②国府川 …天神川と合流する矢津の辺りまでの別称、因幡川ともいう。
- ③因幡川 …天神川と合流する矢津の辺りまでの別称、国府川ともいう。
- ④袋川 ……下流域の河川名。現在行政上の河川名。
- ⑤新袋川 …昭和 9 年に完成。大村から西進し千代川に注ぐ放水路。
- ⑥城川 ……鳥取城の堀をなす川だったことによる。
- ⑦法美川 …法美郡を流れることによる別称。「時範記」（因幡国守 平時範の日記）に記載されている名称。
- ⑧湊川 ……「太閤記」に記載されている名称。（賀露の湊から鳥取城に舟運の使いをもたらす唯一の水路。）



雨滝付近の川



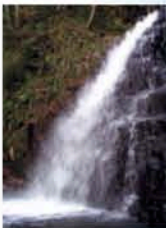
■雨滝四十八滝

袋川の上流には、日本の滝百選に選ばれた雨滝をはじめ数多くの滝があり、雨滝四十八滝と呼ばれている。48 は、いろは 48 文字にたとえて言ったもので、実際の滝の数を示すものではなく、数が多いということを示している。

- ①雨滝…幅 4m、高さ 40m の直瀑。不動明王が祀られた古来よりの霊場で、お遍路さんの信仰の場であった。[F-3]
- ②布引の滝…流れが白布を引いたような滝。山腹より流れる地下水による滝のため大雨の時も日照りの時も水量の変化が少ない。[F-3]
- ③宮滝…4 段の重箱が谷の斜面に並んでひとつの滝を造る段瀑。[F-3]
- ④樋滝…岩が樋の如く三段になった急流の滝。[G-3]
- ⑤平滝…樋滝の上にある大きな滝。[G-3]
- ⑥比丘尼滝（ビクニン滝）…水量は少ないものの落差のある滝。[G-3]
- ⑦⑧夫婦滝…二つ並んだ滝 大正 10 年、知事案内の際に名付けられた。[F-3]
- ⑨⑩親子滝…大・小二つ並んだ滝。[F-3]
- ⑪馬淵滝…長者の息子が乗り回していた愛馬が落ちたことに由来する。
- ⑫一番滝 ⑬二番滝 ⑭菖蒲谷滝…雨滝右の仏谷奥にひっそり佇む滝。[F-3]



布引の滝



宮滝

五、水害との闘いと河川の改修

■洪水の記憶を今に伝える

藩政時代の鳥取は度重なる洪水に見舞われてきた。長雨が続きと水があふれ、あふれた雨水は支流から本流へとすさまじい勢いで河口に流れていった。しかし、屈曲した河口のため水は流れず逆流し、しばしば大洪水をもたらした。

鳥取藩は、洪水の度ごとに堤防を改修してきたが、根本的な治水政策は見当たらず、人々の被った損害は図り知れないものであった。

鳥取の地の宿命・千代川からの逆流 ―西北の強風の恐ろしさ―

- 千代川は中国山脈の志戸坂峠に源を発して八頭郡の谷々から流れる雨水又は降水を集めつつ日本海に注いでいる。
 - ふだんは鳥取城下町に舟運の恵みを与えてくれている。
 - しかし、大洪水になると暴れ、奔流は手をつけられない。
 - 国安あたりの堤防が決壊すると濁流は鳥取の中心部を襲う。
 - 一度豪雨と共に西北の強風が吹き、波浪が賀露の港口を塞げば、千代川の水は見るみる増水して袋川を逆流し、鳥取城下に溢れた。
 - それに加えて因幡川からの奔流が流れ込む。
- 洪水の恐怖は鳥取の地の宿命である。

■藩政期の大水害・五水

- ①高麗水（コウライミズ）……文禄 2 年（1593）8 月
豊臣秀吉が高麗に出兵中の大洪水であったのでその名がある。「高麗の水」ともいう。7 月末より太陽に雲霧が覆い雨は止み間なく降り、8 月の中頃からは豪雨が続き稀有の大洪水となった。壮年や若者はみなこのいくさに徴兵されていた出兵中の洪水であったので、人畜に及ぼした被害はことに大きかった。
- ②遷封水（オクニガエミズ）……寛永 12 年（1635）8 月
初代藩主池田光仲の国替え直後に起こったことからその名がある。7 月下旬より雨が降り始めて 8 月になっても止まず、北風が激しく吹き荒れて河口から水が逆流し、城下の外郭をなす袋川の土手に流れ、または土手を壊して城下は 8 尺～1 丈（約 2.4 ～ 3m）も水に浸かった。家屋は押し流され、多くの溺死者を出した。田んぼや食物も泥に浸かり、洪水後も枯渇に苦しんだ。
- ③種稲水（ウエツケミズ）……寛文 13 年（1673）5 月
「丑年の水」ともいう。前日からの暴雨によって水が満ち氾濫した。但馬殿橋、鍬物師橋、出合橋、船宮の橋などが流れ落ちたが、袋川の土手は崩れなかったため、危機は免れた。郊外の浸水は 8 ～ 9 尺（約 2.4 ～ 2.7m）に及び、種や稲を植え終えた直後の田畑の損害が特に大きかった。
- ④丁酉水（トリノトシミズ）……享保 14 年（1729）7 月
享保 14 年丁酉の洪水であったため俗に「とりどしの水」と呼ばれている。前日より北東の風が強く吹き、豪雨が夕方から終夜続いた。15 日の明け方に袋川が溢れ、水勢強く、若桜橋以下の橋は全て流失した。多くの民家が流出し、田畑が荒れ、溺死者は計り知れなかった。
- ⑤乙卯水（ウノトシミズ）……寛政 7 年（1795）8 月
寛政 7 年乙卯の年の大洪水で「卯歳（うのとし）の水」ともいう。北風強く大雨が降り注ぎ、30 日早朝には円通寺、国安の土手が切れ、袋川の水も溢れ、最勝院の土手を皮切りに袋川の土手が次々と壊れて城下に流れ込み、深い所では 5 尺（約 1.5m）も水に浸かった。若桜橋より以下の橋はことごとく落ち、流出した家屋も多く、溺死者は 600 人を超えるといわれ、大被害をもたらした。

■城下の水害を記した二大書物

①五水記

文禄 2 年（1593）の高麗水から寛政 7 年（1795）乙卯水まで約 200 年の間におきた 5 つの大水害を記した記録書（著者：鳥取藩の医師中本右吉三郎、寛政 8 年（1796）作）

⑤面影山（100m）
人魚の肉を食べ800年間美しい姿のまま生きたという「八百年比丘尼」の伝説が残る。[C-3]

- 《内の四山》
- ①今木山（88.9m）……渡来人が住んでいた地ともいわれる。[D-3]
- ②甌山（110m）
山の名は姿が楕（こうぞ）を基す「こしき」に似ている事や、武内宿禰がこの山に甌をすえた伝説に由来する。……[D-3]
- ③御陵山（90m）
「岡益の石堂」があり、これを壇ノ浦の合戦で海中に身を投じた安徳天皇の御陵であるとする伝説による。……[D-4]
- ④手放山（461.2m）……美しい山容から地元の人は別名「神垣富士」と呼んでいる。[E-4]



稲葉山



扇ノ山



手放山

山をどうして「せん」と呼ぶか

『山』訓読み「やま」/音読み：呉音「せん」、漢音：「さん」

・鳥取県と兵庫、岡山県にまたがる地域の山は「せん」と呼ぶ山が多い。大山（だいせん）、氷ノ山（ひょうのせん）、蒜山（ひるせん）、泉山（いずみせん）、扇ノ山（おうぎのせん）等、大昔からこの地方の人は山を「せん」と発音していた。

・仏教のお経の読みは全て呉音である。そこで山岳修験道場の山、例えば吉野大峰の弥山（みせん）、安芸の宮島・厳島の弥山（みせん）、伊予の石鎚山の弥山（みせん）、京都東山の叡山（りょうせん）等、「せん」が使われている山も多い。

■万葉の歴史伝える因幡三山

因幡三山は因幡国跡より身近に見える山であり、国府に赴任してきた当時の人々にとってこの山はふるさとの大和三山（耳成山、畝傍山、天香具山）を彷彿させたことだろう。因幡三山の名はこれに因み昭和三十年ごろ命名された。

①面影山（100m）……因幡国跡から夕陽に照らされた美しい姿が見える。[C-3]

～わがせこが おかげやまの さかぬまに

われのみこひて 見ぬはねたしも～ 大伴家持の叔母

②今木山（88.9m）……因幡国跡から南東にあり平野に屹立する独立峰。[D-3]

～藤波の 散らまく惜しみ ほととぎす

今木の丘を 鳴きて越ゆなり～ 詠み人知らず

③甌山（110m）……因幡国跡からは朝日を迎える真東に位置する。[D-3]



今木山

■地域を結ぶ“二峠”

①十王峠……雨滝街道（法美往来）にあり、山岳修験にゆかりの地で、あの世への入口と信じられ名付けられたという。[F-2]

②門尾三本松峠……若桜往来にあり鳥取城下町に入る最後の峠。[C-4]



十王峠

⑨とっとり川……「信長公記」（織田信長の一代記、著者は信長の家臣・太田牛一）に記載されている名称。



「袋」地名の由来

（説一）水に囲まれた袋状の地形

（説二）ヒク（低）・ド（所）の点で低湿地等

（説三）行きどまりになった袋小路

『鳥府志』には「鳥取の山下にあたる沼沢を埋地となさんとて、川脈を此方へ切込みたる時、数町の間いずれを川脈と云ふこともなく。広き処を流通りしゆえ、袋川の名称はこれより起りたる。」と書かれている。

■千代川の名称由来

むかし千谷川と呼ばれていたようで、それは一国数郡の谷々の流れがみなこの川に流れ加わることから付けられた名で「せんたに」と唱えるうちに「せんだい」と言うようになり、「千代」と書かれるようになったのではないかとされている。その他「泉台」や「千体」の説もある。

《「千体」にまつわる2説》

①弘法大師が上流の山にある千の谷に一体ずつ仏像を安置しようと、千体の仏像を刻んだが、谷は999谷しかなかったため、仏像を全て川に流したという伝説に由来する。

②三面鬼という山賊を退治する際に薬師如来の像を千体に刻み成敗の成就を祈願し、願いが通ったという伝説に由来する。

四、流域の川・滝

◆袋川……千代川水系の1級河川。流長28.4km。兵庫県境にそびえる扇ノ山に源を発し、国府町雨滝地区にある県下最大の雨滝から西流し、大杵で、北流し鳥取市街地を流れる旧河道と西進して千代川に注ぐ新河道とに分かれる。昭和8年、新河道は袋川、旧河道は旧袋川と名付けられる。平成18年4月に旧袋川は袋川に、新河道は新袋川に呼称が変更された。袋川の名前は河川の蛇行に由来するといわれている。

◆千代川……岡山県境に近い智頭町駒蹄の東方沖ノ山（1318.8m）を源流とする。流域面積1190平方km、幹川流路延長52km、鳥取県東部を北流する一級河川。

鳥取平野のなりたち

鳥取平野は海進・海退を繰り返しながら、現在の平野を形作ってきた。



1. 古代の鳥取平野（200万年前）……古代、鳥取平野は海であった。



2. ウルム氷河期の鳥取平野（2万年前）……氷河期による海の後退で陸地が出現。土砂と飛砂が堆積し、砂丘が発達。（古代砂丘）砂丘に火山灰がつもり砂が固定化する。



3. 縄文海進時代の鳥取平野（6,000年前）……縄文時代海進により再び海に沈む。



4. 有史時代以降の鳥取平野（3,000年前）……海の後退で再び陸地が出現する。千代川により土砂が運ばれ再度砂丘が発達、湖山地が海から切り離され潟湖となる。



風光明媚な湖山地にはその景勝を紹介する「湖山八景」、「湖上八勝」が選定されている。

■千代川の流れが作り出す一大景勝地・一池一砂丘

①湖山地……東西4km、南北2.4km、周囲約16kmの日本一大きい池。春には湖面がかすんで対岸が見えないことから「かすみ湖」とも呼ばれている。[A-2]

②多鯨ヶ池……昔、甘い柿を出してくれる国府町のお種という女中がいたという。お種は蛇の化身でこの池の中島にある柿の木に登るところを見られたお種は、再び姿をあらわさなかったという。[C-1]

③鳥取砂丘（浜坂砂丘）……鳥取市の北、日本海に臨む海岸一帯を占める鳥取砂丘。砂丘の範囲は東西約16km、南北2km余りの幅の雄大な景観。砂丘の砂はやや赤味を帯びた白砂で、その感触は柔らかである。日本海から吹きつける風が風紋をつくりあげ、また、凹状の掘鉢をいたるところに見せている。[B-1]



湖山地



離水海食洞



上地の貝化石



宇部神社裏の魚の化石

■海進・後退の歴史を伝える三石・一洞

- ①離水海食洞……高さ1m、幅0.6m、奥行き18m、縄文海進時代6千年前の海岸線。[C-2]
- ②香合石（こうごういし）……割ると中は空洞、かつての海進後退の史実を伝える石。
- ③上地（わじ）の貝化石……約1500万年前の新生代第三紀の層より出土する。[F-4]
- ④宇部神社裏山の魚の化石……約1500万年前の新生代第三紀の層より出土する。[D-3]



■洪水の記憶を今に伝える

- 《地名に残る水越二箇所》
- ①岡益の水越……高麗水の時にこの場所まで水がきたと言われている。
- ②八東郡の私部の水越……王越道という小高い山の最も低い所を水が溢れて越えたと言われている。
- 《洪水の水が来たと言われる三所》
- ①岡益の水越……奥の峠付近まで水がきた。
- ②学行院……お堂の上まで水がきた。[E-4]
- ③宇倍神社……境内の庭まで水がきた。[D-3]
- 《洪水にまつわる三伝説》
- ①溜堀……藤綱という相撲取りが堤を破り水の勢いを減らした。その時溜堀に張った跡が水溜りとなった。
- ②船山……洪水の後、山の中腹に小舟が止まっていた [E-4]
- ③楫取り岩……鹿野町、毛無山の八合目あたりにある大岩に船を繋いだ。
- 《川に流れた二社二蔵》
- ①川床から出た地藏（延命地藏）……袋川の改修工事の際、川床から見つかった。[E-4]
- ②大応寺の聖観音像……川岸の泥の底に埋まっていたものを修理した。[B-2]
- ③多居乃上神社……洪水のとき湖に止まっていた小さな祠を奉ったものとする説がある。[D-3]
- ④流れ荒神（鳥取市河内）……山奥から荒神の祠が流れ出し木の枝に掛かっていた。
- 《救済所・供養塔》
- ①天徳寺境内……救済所を設け、炊き出しなどの災害援助をした。[C-2]
- ②浜坂の溺死海会塔……乙卯水の洪水供養塔。[B-2]



学行院



延命地藏



多居乃上神社



溺死海会塔

■五水記に記された水害の恐ろしさ

◆生きるも死ぬも二人一緒

—乙卯水（うのとみず）・貞女の鑑“豊”の物語—
乙卯水の秘話。

本町三丁目の横丁に「惣七」とその妻「豊」の夫婦が住んでいた。惣七は長い間、病床にある。豊は看病の傍ら手伝い仕事で生計を立てていた。乙卯水でも、まず惣七を二階に上げた。二階にも水が入り込んできたので、屋根に惣七をはい上がらせ助け船を求めた。船頭は豊だけを助けようとしたが、豊は「生きるも死ぬも二人一緒」といいはり、船頭はやむなく、こぎ去ってしまった。屋根に残された二人は抱き合って、神仏に祈り続けた。

やがて、幾時が過ぎ、本町の水はどこよりも早く引きはじめ、二人は無事別の舟に助けられた。

◆憐れ・三郎左衛門

—遷封水（おくにがえみず）・眼前で幼女を溺死させた憐れ—

三郎左衛門は家の梁の上に横木をわらし、老母と妻子を登らせ、自分も登った。両手で老母と幼女を援けていた。やがて老母が目まいをおこし、梁から落ちた。三郎左衛門は水中を手さぐりし片手で老母を引き上げた。しかし、その騒ぎで幼女も落ちた。幼女を援けようとすれば老母がまた落ちそうになったため、眼前で幼女を溺死させてしまった。

◆九死に一生を得た数奇な運命の救済

新茶屋にいた夫婦が享保の水（丁酉水（とりのとしみず））で家の屋根に乗って流されて円山の下まで流れて来た。その時に風が西に変わって、家は善久寺の前を流され円護寺村に漂着し、村民に助けられた。

婦人は、妊娠中で臨月であった。円護寺村で男子を無事出産した。その子は紋六と名付けられた。紋六は60数才になって又、寛政の水（乙卯水（うのとみず））で家ごと流されることとなった。紋六と妻と女の子の三人の家が流されたが、浜坂村の上の小松原の側で船にたすけあげられた。

◆高麗水・洪水位跡

・（太鼓御門）の石壁（石垣）…この標高まで溢水してきた。
・八東郡の私部の「水超」という小高い山の最も低い処を水が溢れて越えたという。現在でも松の木を植えてその目印としている。
・法美郡の岡益の「水超」
・「流れ荒神」…高草郡の松上、河内村の山の頂に荒神の祠がある。高麗水で山奥から流され、山の中腹の樹の枝に掛かっていたのを里人が現在の山頂に安置したもので「流れ荒神」と呼ばれている。

◆揖取岩（かむとりいわ）伝説

—高麗水の浸水位を伝える—

気多高草郡の境、矢橋村の上に毛無山がある。毛無山の八合目あたりに揖取岩という独立した巨岩がある。高麗水の時、この岩に船の楫をつないだので揖取岩と呼ばれるようになった。現在、揖取明神として崇え祠られている。

■洪水で流され架け替えられた藩橋五橋

袋川には鳥取藩の管理する橋が五橋かけられていた。藩指導のもと洪水で流されないように桶や大石を橋の重しとし、大綱で橋脚を結ぶなどの方策をとったが、記録的な大洪水の場合は橋の流失は免れなかった。

- ①若桜橋 [C-2]
- ②知頭（智頭）橋 [C-2]
- ③鹿野橋 [C-2]
- ④鑄物師橋 [C-2]
- ⑤出会（出合）橋 [C-2]



若桜橋



智頭橋

■乙卯水・善政と助け合いの心を伝える

《「池田治道」治世の時代、藩が施した四善政》

- ①洪水の後、食料が水に浸かり困窮していた町民に炊き出しを施した。
- ②届け出れば、米を貸すとの号令を出した。
- ③藩の倉米を舟で運び出し、安い価格で提供した。
- ④物価を高くしたものを処罰した。

《助け合いの心・五つの出来事》

- ①蓄えの無いものに処々でかゆの施しをした。
- ②商人たちは米、塩、醤油など生活必需品を格安で提供した。

■治水計画・変更の契機となった 三大水害

- ①大正元年（1912）9月の洪水…千代川・袋川ともに増水氾濫して、鳥取市街地は大洪水となり、鳥取県下一帯にわたり、前代未聞とさえいわれる大水害となった。
- ②大正7年（1918）9月の洪水…美敷水源池の堤体を崩し袋川堤防を決壊した水は、わずか数十分の間に、全市を泥海と化してしまった。全市はあたかも浮城に似て、家々はわずかに屋根を浮かべているだけだった。
- ③大正12年（1923）9月の洪水…千代川流域の雨量は軒並み300ミリを超え、たちまち千代川を乱流して、堤防を破壊し、流域に大被害をもたらした。特に下流域の堤防・護岸・道路・橋梁などへの被害は甚大であった。

■袋川・水害との斗いの歴史を伝える二つの碑

- ①千代川改修之碑…昭和49年10月1日建立 改修の歴史を伝える。 [B-2]
- ②浜坂の溺死海会塔…江戸時代の大水害「乙卯水」の洪水供養塔。 [B-2]



千代川改修之碑

■地域を潤し災害から守る豊かな水瓶

- ①百谷ダム …………… 天神川の氾濫防ぐ治水ダム。 [D-2]
- ②美敷砂防堰堤 …………… 近代水道百選に選定された美敷水源池を偲ぶ。 [D-3]
- ③殿ダム …………… 水害や水不足から生活を守る多目的ダム。 [E-4]

七、鳥取城と袋川

■鳥取城下を支えた袋川の水運にまつわる六逸話

- ①鳥取城への物資補給路…河口から様々な品が運ばれ、袋川筋に材木問屋、魚市場、青物市場などが置かれた。
- ②藩主が賀露の御茶屋や下屋敷へと向かう際の交通路。
- ③年貢米の運び入れ…千代川河口から袋川をさかのぼり藩蔵に納められた。
- ④池田光仲の墓標を運ぶ運搬路。
- ⑤袋川での水練をする際、川船の運行を妨げることの無いようにとのお触れがでた。
- ⑥川船運行の支障にならぬよう袋川の橋の上に立ち止まるなどのお触れがでた。

■袋川の舟運にちなむ一石碑・一橋・一乗場

- ①池田光仲の墓石 …… 用瀬から墓石を袋川の舟運で運んだ。 [D-3]
- ②御舟橋 …………… 鳥取藩主の船がしまわれていた脇にかかる。 [C-2]
- ③お乗り場 …………… 鳥取藩主の乗船場所。 [C-2]



池田家墓所

■袋川にちなむ二規律

- ①袋川御法度之覚…寛文3年（1663）以降渇水時期になると袋川の水質保護を目的として御法度が出された。

延宝6年（1678）6月	一、水あび子供にいたるまで堅く禁止
	一、ゴミすでの禁止
	一、汚らしいものを洗うことを禁止
	一、川での洗濯を禁止
	一、肥え舟の通行区間の設置

袋川ではお盆の15日に燈ろう流しが行われていたが、寛政6年（1794）7月、袋川の水質保護のため、千代川で行うよう藩から御法度が出された。
- ②池田藩“律”「御追放者御構場所」
 - 袋川払い…追放者は袋川より中に入ってはいけなことが決められていた。「一本橋（吉方）より出会橋場所木戸迄を限り、上は川を越えそうろう共に、立川大橋より天神川を限りとして御城下の方構」
 - 御城下払い…城下に入ってはならない。

■城下町の飲み水

- ①武家の大半…水道谷の「ひょうたん池」から水が木管を経て注ぎこまれた。惣門内には20数箇所の井戸があった。
- ②一般の人々…袋川の水を飲み水、使い水とした。

袋川の水は飲料に適す

「袋川は雨滝の奥にその源を発し、山間の岩石の間を奔流して、法美の沃地に来り、緩く鳥取の市街を廻るなれば、その水質極めて良好、清冽にしてすこぶる飲料に適す。」（鳥取藩史）

■武家の水道

池田光政は武家のための水道工事を起こし、元和3年（1617年）から15年をかけ水道谷に奥水道、

■流域を潤す用水路

- ①津ノ井用水…天正年間（1573～1571）開削、私都川^{きさいちがわ}の水を流すために谷あい切り抜いた。 [D-4]
- ②京ヶ原用水…明治時代開削、国府町^{むけ}上地の棚田を潤すため上地川上流より山腹に沿った約3.9kmの用水路。 [F-4]

■人々の暮らしを支えた水力発電所

- ①荒舟発電所…鳥取県初の発電所。 [E-4]
- ②拾石発電所(跡) …農作業用や地域の防犯灯の電力を作り出していた。 [E-4]
- ③雨滝の発電所（跡）…雨滝に光を灯した水力発電。

■努力の結晶・豊かな実りを育む四地域

- ①上地^{わじ}の棚田…ボランティアによって棚田を潤す用水路を保全し、ここで栽培した酒米で日本酒を醸造して地域の活性化に資する。 [F-4]
- ②神護^{かんろ}の甘茶畑…昔から集落で飲まれていた甘茶は万能の薬。 [E-3]
- ③稲葉山しいたけ団地…12万本のほだきがある県内有数のしいたけ産地。 [D-2]
- ④因幡りんご園…稲葉山にあるりんご園、3000本の木々に実る。 [D-3]

■袋川・水と親しむ三公園

- ①水辺の楽校・谷広場…万葉の里にある水遊びや自然観察ができる公園。 [D-4]
- ②水辺の楽校・町屋広場（桜堤公園）…桜の薄紅色と菜の花の黄色が春を彩る。川遊びも出て子供達に人気。 [D-3]
- ③袋川遊水公園…かつての袋川と千代川の合流部に誕生する自然との共生を目指す公園。 [B-2]

■袋川・流域の人々の思いを伝える三碑

- ①袋川源流の碑…地元の子供たちの思いや願いを一緒に埋めた。 [G-3]
- ②桜土手碑…平成5年7月建立 昭和27年の鳥取大火で焼失した土手の桜の復活に尽力した瀬川弥太郎氏の偉業を称える碑。 [C-2]
- ③岡野貞一記念碑…童謡「ふるさと」の作曲者、故郷の袋川に想いを馳せて作曲したという。 [C-2]

■鳥取城を起点とした四街道

- ①智頭街道 …………… 鳥取から智頭を経て山陽道へ抜ける参勤交代が往来した街道。
- ②若桜街道 …………… 鳥取から郡家、八東を通り若桜へ向かう街道。
- ③鹿野街道 …………… 温泉とお寺詣での道としての利用が多い鹿野町へ向かう街道。
- ④雨滝街道（法美往来）…鳥取城下と岩井郡蒲生村を結ぶ道、たじま道、岩井往来ともよばれる。

■雨滝街道（法美往来）

鳥取から立川、宮下、谷、殿、拾石、木原、雨滝を経て十王峠を越えて、但馬や岩井へと通ずる街道である。街道には、藩政期に設けられた道標や、その後の道路改修の記念碑がある。

《街道の道しるべ、一道標、一常夜燈、五地藏》

- ①右糸谷の道標（谷） [D-3]
 - ②門柱と常夜燈（谷） [D-3]
 - ③道標地藏（宮下） [D-3]
 - ④高岡口の道標地藏（麻生） [D-3]
 - ⑤橋安全地藏（清水） [D-4]
 - ⑥道標地藏（楠城） [E-3]
 - ⑦十王峠の地藏（雨滝） [F-2]
- 《雨滝街道の歴史伝える三碑》
- ①宮下道路拡張記念碑（宮下） [D-3]
 - ②上地道路改修記念碑（中河原） [E-4]
 - ③雨滝街道改修記念碑（谷） [D-4]
- 《修驗との関係示す事物》
- ①十王峠 [F-2]
 - ②「十王図」（殿） [D-3]
 - ③不動坂（拾石） [E-3]



十王峠の地藏



上地道路改修記念碑

■華やかな郷土芸能

- ①因幡の傘踊り
百個もの小鈴をつけ、美しく彩った長柄の傘を、唄に合わせて振り回す、勇壮で激しい踊り。踊りは雨乞い祈願に由来する。鳥取藩主池田光仲が創始した。
- ②宇倍神社の麒麟獅子舞 [D-3]
朝鮮半島、百濟^{くだら}から伝わったと言われる。宇倍神社の境内で麒麟獅子がゆったりと舞う。



因幡の傘踊り



麒麟獅子舞

九、袋川流域に華開く歴史文化

■袋川流域に華開く因幡国府の歴史を伝える 四史跡

奈良・平安時代、全国に国府と呼ばれる役所が設置された。因幡の国の国府は、袋川流域、旧

- ③善政に報いんと、町民は率先して堤を修築することを願いでた。その数、およそ 6000 人。
④富商三人、茶町秋里屋某、元魚町松岡屋某、智頭街道玉屋某らは流れ落ちた橋を新築した。
⑤水害時、舟を持っていたものは危急のものを救い乗せ助けた。

■洪水へのそなえ

- ①御用石…橋が流されないように橋上に置く重石が用意されていた。
②注進制度…袋川の水を監視し報告を義務づけた。智頭橋付近の増水状況を持って一般防水準備の標準とした（一番注進 川床七分～四番注進 土手八分までの 4 段階）。

六、袋川の三変遷

袋川下流部一帯は沖積層で軟弱地盤であるため、浸蝕がはなはだしく、流路の蛇行は千代川水系の中でも、もっともはげしかったといわれている。
その蛇行した中に町を築いていくために幾度に渡り川の付け替えが行われてきた。



《付け替え前の袋川》

付け替え工事前の袋川は稲葉山の山裾に沿って流れていた。国府町宮ノ下の町はずれから奥谷方面に流れ、岩倉、卯垣のすぐ前を通り、天神川に合流し、立川を経て、鳥取城下へと流れていたと伝えられている。

第一期改修：池田長吉による付け替え

慶長 6 年（1601）関が原で東軍に味方した池田長吉が鳥取城主を封ぜられた。入府した池田長吉は城の拡張と城下の整備を行った。現在の市役所から醇風小学校に至る間の堤防を築き、これに柳を植え、外側に堀をほって、因幡川の水を通じた。また国府町宮ノ下の町はずれから奥谷方面に向かって流れていた流れを、同じ宮ノ下から今在家方面に変えて、大杵から市街地に流れこむよう改修にした。

第二期改修：池田光政による付け替え

池田光政は元和 3 年（1617）52 万石の姫路より 6 万石の鳥取に移封されたため城下町を拡大する必要があった。そこで、吉方稲平のドント（現修立小学校の前あたり）から今の玄好町、材木町の境にある出会い橋にかけて 14～15 丁（1.6km）の間、幅 7 間（12.6m）、深さ 3 間半（6.3m）の開削を行い、池田長吉の掘った川の外側に川の流れを変えた。柳堤（池田長吉の作った）より内側は侍屋敷、外側は町人町であった。この新川掘削工事で掘り出されたおびたしい土で土手（堤防）が築かれた。

第三期改修：千代川改修工事に伴う付け替え

大正 15 年から昭和 9 年に及ぶ大工事によって、鳥取市秋里付近で大きく右回蛇行していた千代川は、海へ直進する新しい河川に改修された。あわせて大杵付近から山陰線千代川鉄橋付近で、千代川に合流する放水路、新袋川が新設された。これにより以前の流路のうち大杵から北を旧袋川と呼ぶようになった。さらに平成 18 年 4 月より旧袋川はもとの呼称の袋川に、大杵から西進する袋川は新袋川と呼称が変更された。

中水道、口水道と 3 力所の貯水池を設けた。ここから木管で武家屋敷の井戸に供給した。（水道貯水概算は 2 万 8,369kl）この三つの水道は、明治の末期まで補修しながら使用されていた。

■大衆の社交場・袋川

- ①いと場（為登場）…江戸時代から昭和の始め頃までは、袋川には数多くの川への降り口（いと場）が設けられていた。川船に積んだ荷物の積み上げや、洗濯をする場でもあった。
②桜土手…桜咲く季節には、土手沿いに人々が集い、舟遊びも盛んであった。昭和 28 年の鳥取大火災で焼失するも、京都大学助教授瀬川弥太郎氏の匿名での苗木寄付や市民の努力が実り、桜土手が復活した。

■桜土手の誕生

明治期に堤防は道路として利用されるようになり桜が植えられた。

- ①若桜橋より上流…日露戦争の戦勝記念。（明治 37、8 年）
②若桜橋より下流…大正天皇の御大典記念。



桜土手

八、流域のくらし

■山陰における近代上水道の草分け美敷水源

○水一杯もタダでは飲めぬ

鳥取市の飲料水は武家屋敷用の水道と通常井戸、袋川にたよったまま、旧藩時代からほとんど進歩なく 明治末に及んだ。大正期には井戸の数 2600 と各所に井戸が掘られたが、沼地である城下からは良き飲料水が湧き出ず、清水を売り歩く商売があった。直径 30cm、深さ 60cm 位の桶 1 杯が約 2 銭であった。

○水源地決定までの三変遷

①田中信慶の多鯉ヶ池水源地案

多鯉ヶ池を水源地として、久松山のふもとに配水池を設け、鳥取市とその付近に給水する案。上水道構想をまとめた最初のもの。

②小林柏次郎の大茅川案

袋川支流（大茅川）を水源と定めた計画。

③三田善太郎の美敷水源地案

上記 2 案に千代川、美敷を加え、工費、維持費を検討の末、この案が認可された。大正元年に着工し同 4 年 9 月に通水を開始した。水源地堰堤（現在砂防堰堤に改良）



水源地堰堤（現在砂防堰堤に改良）

- ・池田長吉は堤防の内側に町人をつまわせた。
 - ・外部との連絡通路は九門である。
 - ・九門の内側を「惣門内」という。
- 《九門》
宮内口、江崎口、若桜口、智頭口、鹿野口、内丹後口、丹後口、馬場口、山手口

■池田長吉の薬研堀

- ・寺町あたりから江崎方面に切り込んで流れた袋川の古川筋は薬研堀といった。
- ・長吉が掘った若桜町惣門から柳蔵までの堀も薬研堀と呼ばれた。

〔薬研〕主として漢方の薬種を細粉にする金屋製または硬木製の器具。形は舟形で中が深く窪む。これに薬種を入れて、軸のついた円板状の車輪様のものをきらせて薬種を押しくだく。

〔薬研堀〕薬研の形、すなわち V 字形になった底の狭い堀。



薬研

■袋川の付け替えに伴う、城下を守る 2 つの技

- ①いと場（為登場）…川への降り口、ここ以外を全て竹藪とし、敵の来襲に備えた防御線、また洪水への防御とした。
②武者走り…土手の内側につくられた幅二間（3.6m）の通路をそなえていた。敵に包囲された場合の兵站線を確保するためのもの。

■藩政期の 2 度の付け替えにより誕生した 2 つの堤

- ①柳堤…池田長吉により築かれた土手には柳が植えられた。
②桜堤…池田光政により築かれた土手には竹やぶが植えられた。明治になり竹やぶが刈られ桜が植えられた。

国府町（現鳥取市）に置かれ政治・経済・文化の中心として栄えてきた。都から因幡国府に任命された国守の中には、万葉集の編者でも知られる大伴家持、また小倉百人一首の一首を残した在原行平など著名な人もおり、袋川流域には当時の栄華を伝える数多くの史跡が残されている。

- ①因幡国庁跡…東西 150m、南北 213m 律令時代の因幡国の政治をつかさどる役所跡。〔C-3〕
②国分寺跡…塔の礎石が見つかった。〔C-3〕
③国分尼寺跡…礎石が見つかった。〔D-3〕
④万葉の河原…岩美郡史に記された飯山付近の河原をさす。〔D-3〕



因幡国庁跡

■万葉の里・国府を伝える 二歌碑

因幡国守として当地に赴いた大伴家持は、また、万葉集の編纂者としても知られている。万葉集 4516 首の最後は、因幡国守であった大伴家持の次の歌で締められている。



大伴家持の歌碑



在原行平の歌碑

新しき 年のはじめの 初春の
今日降る雪の いやしけ吉事
大伴家持
藤波の 散らまく惜しみ はごんさす
今木の丘を鳴きまき 越ゆなり
読人不知
〔D-3〕

■在原行平・百人一首十六番歌の由来

斉衡 2 年（855）、在原行平は因幡の国の国守を命ぜられて単身赴任する途中、須磨の浦で潮汐む美しい姉妹の松風・村雨を見染め、同行させた。百人一首の十六番歌として知られる稲葉山を詠った歌は、因幡国へ出発する前に都で妻との別れを惜しんで歌ったものとする説と、松風・村雨姉妹と 4 年間稲葉山の麓で過ごした日々と二人を残して帰任する際の別れを惜しんで詠んだ歌とする説がある。

■万葉の里に華開く文化の香り・四歌碑三句碑

わがせこが 面影山の さかあまに
われのみこひて 見ぬはわたしも
大伴上郎女
〔D-3〕
たたらわかれ いなばの山の 峰におふる
まことしきは 今帰るこむ
在原行平
〔D-3〕
ふる雪の いやしけ吉事 こに
うたひあげむ ことほぎの歌
佐佐木信綱
〔D-3〕
りんどうを 胸にかざりて 山路行く
七十四才の 直哉美し
岡田美子（長通寺）
〔D-4〕
はるの山の うしろから
けむりが出だした
尾崎哉哉（興禪寺）
〔C-2〕
こたまして なにやら楽し 冬の空
岡田美子
〔D-3〕
ふるさこの 山の放らし 山鳥
谷口雲崖
〔D-3〕

■平家の悲哀 安徳天皇 三伝承

- ①御陵山……安徳天皇の御陵であるとする伝説があり、宮内庁管轄となっている。〔D-4〕
②新井の石舟……安徳天皇をこの地にお連れした二位の尼の墓とする伝説もある。〔E-4〕
③崩御ヶ平……安徳天皇がこの地に落ち延び、崩御されたという。〔E-4〕

■国府の三堂

- ①茅ん堂（木原）…耳の病にご利益があるといい、遠く但馬からの参拝者も多かったという。〔F-3〕
②土ん堂（松尾）…希代の霊仏と称され、時の城主、池田長吉より寺領を受けた土堂薬師（学行院）。〔E-4〕
③石堂（岡益）…由来は謎に包まれた大陸の仏教文化の影響を強く受けたエンタシスの石柱。〔D-4〕



岡益の石堂

■因幡八景

江戸時代に描かれ千代川および袋川流域、湖山池周辺という限られた地域の景勝を描いたもの。

- ①湖山落雁……湖山を描いている。〔A-2〕
②丸山秋月……交通の要衝であった丸山を描いている。〔C-2〕
③防己尾晚鐘……湖山池南西部であり、潮音寺や防己尾城跡が描かれている。〔A-2〕
④賀露帰帆……千代川河口を描いている。〔B-1〕
⑤三嶋夜雨……千代川河畔にかつてあった三嶋大明神を描いている。〔B-2〕
⑥濱坂夕照……袋川と千代川との合流点を描いている。〔B-2〕
⑦松原晴嵐……千代川右岸の土手を描いている。古海から袋川合流点までの土手には小松が植えられていたため小松原と呼ばれていた。〔B-2〕
⑧鷲峰暮雪……因幡の秀峰として知られる鷲峰山を描いている。



濱坂夕照



松原晴嵐